や「秋」との関連で内容(3)を取り上げている場合がある。

ア　内容(3)の「季節や地域の行事にかかわる活動を行い～」を「冬のくらし」の中で取り上げている小学校がほとんどである。

イ　「たこ作り」や「節分のまめまき」など指導計画上に示されているのは7校である。その他、「だるま市」や「とりおい」、「だんごさし」等が取り上げられている。

多くの小学校では、「冬の行事を探そう」というように大きく取り上げるに留まっており、地域の行事を生かせる単元ではあるが、パターン化している単元とも考えられる。

さらに、この内容では、第1学年で同様の活動をしている小学校があり、第1学年と第2学年の活動の関連、発展性に配慮した計画にする必要がある。

V　研究のまとめと今後の課題

1　研究のまとめ

今回調査した小学校60校は、県内各地区から大・中・小規模別に抽出したものであり、昨年の福島県内小学校の生活科指導計画の現状の一端を伺うことができる。しかし、今回の調査研究は、あくまで指導計画上に表れたことを読み取ったものであり、指導計画上から読み取れない実際については排除している。そのことに留意し、今回の調査結果から今後の指導計画改善に向けての視点となることを記して、研究のまとめとしたい。

(1)　教科書会社作成の指導計画や広域カリキュラムを利用している小学校が約半数にのぼるが、今後、地域や学校、児童の実態等を生かした学校独自のものに改善していく必要がある。

(2)　「季節や地域の行事」を具体的に活動として生かしている小学校は少なく、地域を見直し活用していく必要がある。

(3)　第1学年と第2学年の活動に同じ内容のものがあり、活動内容の高まりや深まりが指導計画から分かるよう、各学年の内容を明確にする必要がある。

(4)　単元内容と各学年に示された内容6項目との関連が明確でない場合があり、関連を明確にする必要がある。

(5)　学校独自の指導計画を十分に活用できるよう、形式や活用方法を十分に検討する必要がある。

2　今後の課題

福島県教育委員会「平成8年度学校教育指導の重点　生活」では、「各学校の実態を踏まえ、特色を生かした指導計画となるように、改善・充実を図る。」と各学校での実践を踏まえた一層の改善を求めている。

2年次の今年度は、今回の調査で調査対象としなかった単元や指導計画全体における単元の構成や配列等について研究を進め、生活科指導計画改善の視点を、一層具体的なものにしていきたい。さらに、児童の思いや願いを生かしながら、教師の思いや願いをも生かす指導計画の実際を探っていきたい。

【参考文献】

・小学校学習指導要領（生活）　文部省
・小学校生活指導資料
　「指導計画の作成と学習指導」　文部省
・生活科単元研究のポイント　ぎょうせい
・生活科情報事典　ぎょうせい
・小学校教育課程講座　生活　ぎょうせい
・四季の生活科　No.7　東洋館